

令和2年12月1日

# 敬愛短大附属幼稚園だより 12月号

12月に咲く花をインターネットで検索するとたくさんあることが分かります。また、12月＝寒い月で、多くの人が厚手のコートに身を包んで通勤する様子を目にします。車もスタッドレスのタイヤに履き替える準備をされる方も多くいます。

しかし、近年の12月はどうでしょうか。以前は本格的な冬を迎える前に雪が降ることがあったり、動植物も冬の準備が始まる時期でした。「でした」というのは、11月中旬に夏日（最高気温が25℃以上の日）があったり、昭和の時代には考えられなかった出来事です。昭和時代の夏は暑くても30℃程度の日が多く、近年のように、一般的には40℃などということはありませんでした。更に、エアコンなども一般家庭にはまだ普及していなかった時代でしたので、30℃の気温は十分暑かったと感じました。今年の様子はどうでしょう。この気温ではもしかすると幼虫が見られたり、モンシロチョウまで幼稚園で見られるかもしれません。（11月初旬には観察できました）

## 1 千葉県で一番南に位置する館山市の気温は千葉市より高い？

館山市のホームページには、『年間平均気温16℃以上の「千葉県房総半島」南部に位置し、温暖な気候に恵まれて、1月にはポピーやストック、菜の花が咲き誇り、花畑は満開になる「花のまち」です』と記載されています。

確かに、私たち千葉県人も同じ認識を持っています。気象の解説者の話やニュースでも花が咲き誇っている温暖な館山周辺は1月ころには良く紹介され、旅番組では何度も取り上げられます。

書き出しの文章では「夏日」のことを書きましたが、では「冬日」はどうでしょうか。気象用語では、1日の最低気温が0℃未満の日を「冬日」、1日の最高気温が0℃未満の日を「真冬日」と定義されています。

ここで最初の疑問に戻ります。「館山市の気温は千葉市より高い？」という問いに皆さんはどのように答えるでしょうか。

確かに、館山市の気温について、平均気温は千葉市より高いです。この温暖な気候がどこよりも早く花を咲かせる春を呼んでくれます。しかし、「冬日」という観点で館山市と千葉市を比較すると館山市のほうが千葉市より冬日が多いことが分かっています。なんと、実は館山市の方が千葉市より最低気温が0℃未満の日が多いのです。館山市の平均気温が温暖で千葉市より高いのは海洋に面していて銚子市の気温と同様に黒潮（暖流）の影響をうけることで説明が付きやすいのですが、館山市の冬日が内陸の千葉市より多いのはどのように気象予報士は説明するのでしょうか。子どもたちが小学生になったら自由研究で調べてみてはどうでしょうか。このように刷り込まれた思い込みは、時として私たちを惑わせます。

## 2 今年のフィナーレは、子どもたちからの成長の贈り物

12月の幼稚園のスタートは生活発表会から始まります。この原稿を書いている今日もお隣の年少さんのクラスから元気のよい明るい声が響いてきます。また、年中・年長クラスも同様です。特に年長さんは3年間の集大成として力が入っています。衣装合わせも完了し、まもなく保護者の皆様にお披露目されますのでご期待ください。（影の声：先生方の力の入れ方も半端なし、当日まで先生方の体力が心配）

当日は、子どもたちも緊張感いっぱいですが、たくさんの人に見てもらえる嬉しさもいっぱいです。お家の方の優しい眼差しに見守られながらの演技はとてもかわいらしいですよ。もしかすると保護者の皆様の瞳は豪雨になるかもしれません。ぜひ、子どもたちの敬愛幼稚園での成長を参観の皆様方の心にしっかりと留めてください。

（園長 杉山清志）